

令和5年度 関屋小学校研究計画

関屋小学校学力向上部

1 研究主題

成長を自覚し、主体的に学ぶ児童を育成する授業（3年次）
～ループリックをねらいにつなげる手立ての研究～

2 研究主題設定の意図（下の「要請」「実態」は主題設定時のもの）

<p><社会の要請></p> <ul style="list-style-type: none">・GIGA スクール構想の実施によるICT 利活用力の育成。・指導と評価の一体化及び、児童自身が学習評価を行い、その結果を学習改善に生かすという学びの在り方（H31 中教審報告、通知）。・新潟市の授業づくりでタブレット端末をアウトプットの手段として使う授業を推奨。単元構想の強化。	<p><児童の実態></p> <ul style="list-style-type: none">・タブレット端末に慣れてきたが、思考・表現ツールの十分な使用にはまだ至っていない。・自らの学習を調整する力は十分身に付いていない。・自ら探究する力には個人差が大きい。	<p><関屋小職員の実態></p> <ul style="list-style-type: none">・評価のとらえや新しい新潟市の授業づくりをさらに理解し、実践を重ねる必要がある。・自らのICT 活用力、授業での生かし方、児童への指導について、個人差がある。・学び合う集団である。
---	--	--

学習を振り返って自分の成長を自覚することは、次の行為を生み出す原動力となり、そうした感覚や感情を感得することの繰り返し、「主体的に学ぶ姿」につながり、「対話的で深い学び」を一層充実させる。こうした学びの充実により、児童は成長を実感できるようになる。よって、成長の実感は、当校の重点課題となっている。

当校では、令和3年度から上記の研究主題を設定し、授業改善を図ってきた（令和3年度、4年度は、新潟市の授業改革パイロット校事業の指定校として取り組んだ）。それにより、評価対象となる活動の直前に児童と教師がループリックを共有することで、児童がめあてをより明確に持ち、主体的に学習に取り組むことが分かってきた。また、タブレット端末の活用は日常的に進み、授業の様々な場面で効果的に使えるようになってきた。

昨年度は、思考・判断・表現の観点において、児童の自己評価と教師の評価とで相違があるという課題が明らかになった。また、評価の相違があった時にループリックの言葉をどうするとよいか、相違を少なくするためにはどうするとよいかについて協議を行ったが、まだ解決には至っていない。

そこで今年度は、公開授業時のループリックの観点を思考・判断・表現に限定し、児童がループリックを目標として取り組む際に、本時のねらいからずれてしまわないような手立てを考え実践することとする。これまでの授業でもそのような手立ては多く見られたが、それに焦点づけた研究を進める。

以上のことから、本研究主題を継続し、副題を変更した。

3 目指す児童像

児童がルーブリックを教師と共有し、ねらいに向かって主体的に学び、成長を自覚する姿

「ルーブリック」とは、単元や本時で身に付けさせたい資質・能力について評価規準を基にした判断基準を定めたものである。「ルーブリックを教師と共有する」とは、教師が作成したルーブリックを単元における適切な段階で児童に提示して共有することである。さらにその上で、児童が学習目標を設定することも含める。児童は、ルーブリックがあると自分の学習目標や見通しを明確にもつことができる。学習を進める中で、児童はルーブリックを基に自分自身の学習状況を自己評価及び相互評価する。教師もルーブリックを基に評価し、支援を行うことができる。なお、教師のみがもつ評価規準と区別するために、当校では、児童と共有する規準のみ「ルーブリック」と呼ぶこととする。

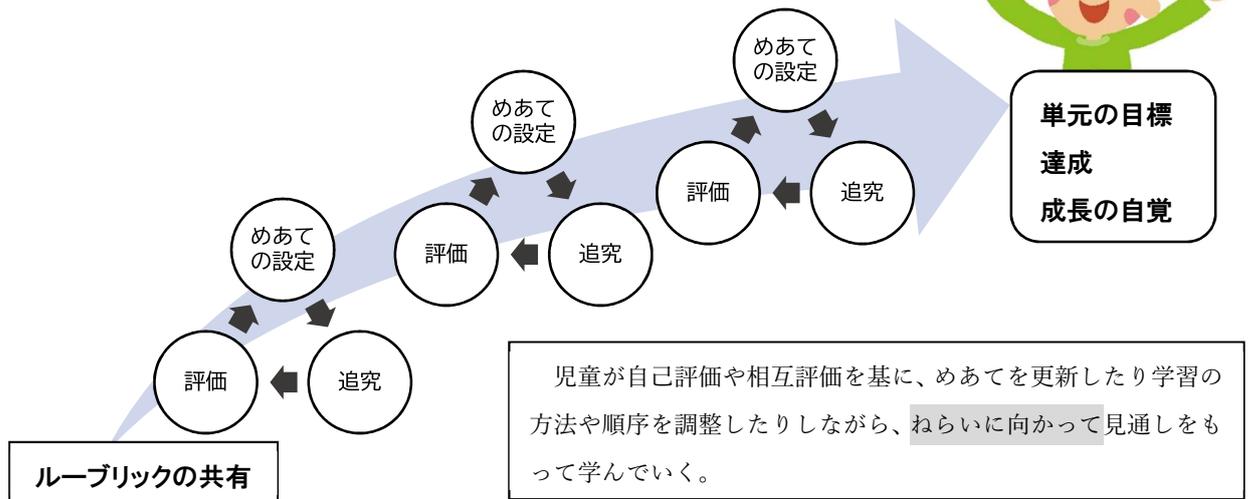
「ねらいに向かって主体的に学ぶ」とは、児童がルーブリックにより目標をもって取り組む過程で、本時のねらいからずれないように教師が学習の方法や順序を調整することで、自分を振り返りねらいに向かって修正しながら学ぶことである。

「成長を自覚する姿」とは、自分の学びを振り返り、学習内容ができる・分かるようになったこと、学習内容を関連付けたり一般化したりして学びを深めたこと、より良い学び方ができるようになったことを表現する姿である。

4 研究仮説

教師が単元で身に付けさせたい資質・能力に合ったルーブリックを作成して児童と共有し、見通しをもたせ、ねらいに沿って学べるような単元構成や学習方法、評価（振り返り）を工夫することで、児童がねらいに向かって主体的に学び、成長を自覚することができる。

ルーブリックを共有しめあてをもって主体的に学ぶ児童の姿



5 研究内容

(1) 単元で身に付けさせたい資質・能力に合ったルーブリック

① ルーブリックの設定

学習指導要領や「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料を基に、単元で身

に付けさせたい資質・能力を明確化する。その上で、それぞれの資質・能力に対して単元の評価規準を設定する。また、規準が共有しにくい「思考力・判断力・表現力」に対して評価の観点を設定する。そして、その観点に対して具体的な姿で3段階の判断基準を設定する。

過去2年間の実践では、ルーブリックに関して以下の成果が見られた。これを踏まえてルーブリックを作成する。

・ レベル3はA評価、レベル2はB評価。レベル1はC評価になるが、児童の意欲を考慮して、レベル1も肯定的な表現にする方がよい。

② 本時のねらいとルーブリックの整合性を高める

本時のねらいは、「○○について、△△をしながら、(もしくは「△△して」) □□することができる。」と記述する。△△の部分には児童がどんな考えを使ったり、どんな力を働かせたりするかを明示することとする。

○○について、△△をしながら、(もしくは「△△して」) □□することができる。
○○…学習内容または学習課題
△△…思考力・判断力・表現力の場合は、思考スキル
□□…その観点として表れる行為

なお、評価規準については本時のねらいの文末を「～している」あるいは、「～しようとしている」とし、本時のねらいの表現と同様にする。

(2) 児童がねらいに向かって主体的に学ぶための単元構成と評価計画

単元導入段階もしくは単元の中核となる活動の前に作品例や単元末の状態を提示して、児童にゴールイメージをもたせる。その上でルーブリックを提示して具体的に目標を設定させる。これが、結果の見通しになる。

次に、学習計画を教師が提示したり児童と一緒に考えたりして、方法の見通しをもたせる。単元の学習の途中で、学習を振り返って評価する場、つまり形成的評価の場を設ける。このとき、ルーブリックでは個数や「キーワードを使う」などで自己評価するとしても、活動内容自体が学習のねらいに沿ったものになっているかどうかを確認する手立てを行う。すると「できた。さらによくしたい」「到達していないので、改善したい」という気持ちが表出され、次の学習に向けた学習の調整につながる。評価は、必ずしも1単位時間ごとに行う必要はなく、内容のまとまりを意識して評価の時期や方法を工夫する。

なお、教科や学習内容、発達段階によっては、単元導入段階にゴールイメージをもたせるのではなく、内容のまとまりごとにゴールイメージが発展しながら更新されていく場合もある。

2年間の実践で、単元構成と評価計画(ルーブリック)に関して以下の成果が見られた。これらを踏まえてルーブリックを作成する。

- ・ 単元または小単元を通したループリックを作成すると、児童は自分がどのレベルにいるかが明確になり、次の活動のめあてがもちやすくなり、成長も実感しやすくなる。また、単元または小単元のループリックを、本時に合わせて具体化したループリックを用いる場合もある。教科や学習内容によって選択するとよい。
- ・ 単元の終末よりも、単元や活動の途中でループリックを提示し振り返ることで、児童は次の活動に向けためあてが明確になり、主体的に学びに向かうようになる。
- ・ 児童が学習内容やゴールイメージをある程度もった後、評価する活動の直前でループリックを提示すると、児童はより教師のねらいに沿って取り組むようになる。

(3) タブレット端末の活用（公開授業で必ずしも使う必要はない）

① タブレット端末を使うよさ

- (ア) 音声や写真、ワークシート等の記録や保存、検索、比較がしやすい。
- (イ) 授業者のタブレット端末に情報を集約し、大型テレビで映したり、児童のタブレットに送信したりすることで、学習集団全体の傾向や友達の考えや立場を即時に共有することができる。
- (ウ) マークやコメントで相互評価をしやすい。
- (エ) 文字や画像等の修正、コピー、移動がしやすい。

② 自己評価や相互評価の場面において考えられる活用

- (ア) 学習の前と後を比較する。
- (イ) モデルや友達の考えと比較する。
- (ウ) 学習状況の変容を記録して振り返る。
- (エ) 自己の評価の変容を振り返る。

これまでの実践で、タブレット端末の活用に関して以下の試みや成果があった。これらを踏まえて活用を行う。

- ・ 作品の写真を児童が撮り、自分の学習状況を振り返ったり、授業者に提出して授業者が評価材料にしたりする。
- ・ タブレット端末で録音や動画撮影し、再生することで自己評価・相互評価ができ、次の活動に活かしたり、成長を実感したりする。
- ・ 夏休み中の家庭での学びの様子をタブレット端末で撮影し、学校で共有する。
- ・ 児童の考えを授業者のタブレット端末に集約し、共有、比較して考えを深める。
- ・ 個々のタブレット端末で、個人のタイミングで資料を見たり聞いたりする。
- ・ 評価カードを電子化する。
- ・ 作成途中の絵画作品を写真に撮り、追加のイメージを書き込む。
- ・ ワークシートをタブレット端末に送り、提出箱に提出させる。
- ・ 音楽を流す際に、AやBの変わり目を時間軸に記載して提示する。
- ・ 国語の要約の際、全文カードを用意し、タイピングが遅い児童にコピーペーストさせる。

(4) 授業での教師の働き掛け

質の高い課題とまとめ、振り返りのある授業が基本である。しかし、必ずしも1単位時間の中ですべてが含まなくてもよい。これまでは、主に板書で授業中の思考の流れが分かるようにしてき

たが、記録の際のタブレット端末とノートやワークシートの使い分けも考える必要がある。さらに、これまでは主に机間指導で児童の考えを見取ってきたが、タブレット端末で集約する場合には見取り方が従来と変わってくる。教師の支援をいつどのように入れるのか、どの段階で画面を共有して全体交流をするのかも、考えの形成に影響する。

今年度の研究では、ルーブリックの観点を思考・判断・表現に限定し、児童がルーブリックを目標として取り組む際に、本時のねらいからずれてしまわないような手立てを考え実践することに焦点を当てる。

タブレットの操作に不慣れな児童もいる。しかし、座席の工夫や小グループでの活動により、児童が安心感をもち、児童同士の学び合いを促すことができる。

これまでの実践で、以下の効果的な働き掛けがあった。これらを踏まえて働き掛けの工夫を行う。

- ・ 実物や模型を使った教材提示
- ・ ペアやグループ活動の導入
- ・ タブレット端末による動画や写真を補う掲示物の提示や板書、壁面掲示
- ・ 児童間での相互評価

6 研究方法

- ・ 各自が前期後期に1回ずつ研究主題に沿った授業を行い、前期に取り組んだ自分の課題を、後期に改善できるようにする。
- ・ 原則として一人一回公開研究授業を行い、授業や単元での児童の姿から手立ての有効性や研究の方向性について検証する。
- ・ 外部講師を招聘したい場合や先進校への研修に行きたい場合は、研究主任に相談する。
- ・ 4年次以降は、3年次までの成果と課題を受けて、研究の方向性とゴールを定め、研究を深める。

7 授業モデル

- ① 単元の構想と評価計画作成
 - ・ 単元で身に付けさせたい資質・能力の明確化
 - ・ 単元のどこで何をどのように評価するかを定める。
- ② ルーブリックづくり
 - ・ 児童に分かる表現で3段階作成
 - ・ どのタイミングで提示するか
- ③ 児童にルーブリック提示
- ④ ルーブリックをねらいにつなげる手立ての実践
- ⑤ ルーブリックを活用した自己評価、相互評価による学習状況の把握
- ⑥ 学習の調整（めあての更新、課題解決方法の見直し）や成長の自覚及び指導の修正

8 指導案の形式（研究授業用）

- 1 単元名
- 2 単元の目標
- 3 単元の評価規準
- 4 単元と指導の構想

- (1) 単元について
- (2) 児童の実態
- (3) 指導と評価の計画

5 本時の計画

- (1) 本時のねらい
- (2) 本時の構想
 - ① 前時までの児童の実態
 - ② 本時の評価規準
 - ③ ルーブリックをねらいにつなげる手立て
 - ④ 展開

- 9 研究授業の進め方 ……HP 用につき省略
- 10 全体研修、公開授業の予定 ……HP 用につき省略
- 11 外部講師 ……HP 用につき省略

12 研修のまとめ

- 1人 A4 表裏 1枚が目安。
- 授業後一か月以内に作成する。12月の授業者は12月中に作成する。

- (1) 本時のねらいを達成した児童 *数値と具体
- (2) 児童アンケートの結果と教師の見取り *本時の後、または単元末に実施。数値と具体
- (3) ・ルーブリックによる自己評価と指導の実際と成果
本時のルーブリックの児童評価を記述し、どのように提示したか、授業の実際を具体的に記述する。
・ルーブリックをねらいにつなげる手立ての実際と成果
ルーブリックを提示する後(前でもよい)にどのような手立てをして、ねらいからずれないようにしたのか、授業の実際を具体的に記述する。
- (4) 課題 *本時の授業での課題を記述する。

13 参考文献

- ・「総合教育技術」2020.5 P44～58「特集2『学習評価』のマネジメント」
- ・「初等教育資料」No998 「特集I 指導と評価の一体化①」東洋館
- ・「初等教育資料」No998 「特集I 指導と評価の一体化②」東洋館
- ・『『主体的・対話的で深い学び』学習の手引き』田中博之 教育開発研究所
- ・「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」中央教育審議会教育課程部会 H31.1
- ・「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について(通知)」文部科学省 H31.1
- ・「学習評価」田村学 東洋館出版社 ほか